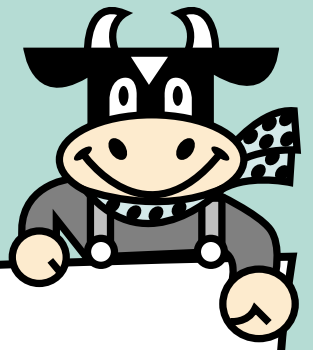




## ワンポイント・アドバイス



### オキシトシンを上手に使う

乳房炎を減らすために

正しい搾乳手順でタイミングよくミルクを装着することは乳房炎予防の基本ですが、このことはオキシトシンと言う牛の体の中で発生したホルモンを上手に使って搾乳するという事です。前搾りから始まり、乳頭、特に乳頭端を清潔なタオルで拭いて、十分オキシトシンを放出させ、1分程度でミルクを正しく装着します。そしてオキシトシンが分泌されている4〜5分間に搾り切ることが重要です。正規の搾乳手順で行えば、搾乳が早くなり、体細胞も下がるという結果がついてきます。

急性乳房炎になったとき

しこり、腫れ、熱感を伴った急性乳房炎を見つけたとき、乳房炎軟膏を入れる前に、たまっている乳房炎乳を出してやらなければなりません。しかし痛みを伴っている乳房はいわゆる乳を下ろさない状態になっており、搾りきるのには難しい場合が多いようです。こういったときは注射のオキシトシンを使うと効果的です。注射して1〜2分待つと即座に反応が現れ、乳房炎乳の残乳を搾りきることが可能となります。特に大腸菌性乳房炎の場合はエンドトキシンと言う大腸菌の死骸から出る毒素がたまっているためオキシトシンを使って残乳と一緒に出してやることが重要です。エンドトキシンをそのまま



にしておくとその後の症状が重篤になっていきます。オキシトシンは乳房炎治療に軟膏と同様に必需品です。